

大学ボート競技のエイト種目におけるクルーリーダーの研究

A study on crew leaders of men's eight in college rowing

1K10C217-1 新藤 耕平

主査 作野 誠一 先生

副査 木村 和彦 先生

【研究背景および研究目的】

リーダーシップやスポーツマンシップの「ship」は船が語源とされている。長い航海に出かける際、死ぬときはみな一緒であるため、その乗員同士は一心同体だったのだという。本論文で取り扱うボート競技は18世紀以降イギリスでの人気上昇した近代スポーツとしてのボートである。このボートというスポーツを語るうえで組織論、特にリーダーシップについての視点は欠くことができない。「職場の管理者の役割をたどてみると、それはちょうど、ボート競技のコックス（舵手、以下略）の役割と同じだと言えます。（中略）方向を的確に指示し、全員の力を結集し、発揮させて、ボートを目標地点に到達させるのが最大の役割です」（日本監督士協会、2011）とも言われているように、しばしばボート競技はチームワークの象徴として取り上げられている。しかし、筆者は自身の競技経験からそのボートを走らせる人員の中のリーダー（以下「クルーリーダー」）はコックスの他にもいるという体験をし、上述したような言説（一般的な理解）とのギャップを感じざるを得ずにいる。しかしこれについて取り上げた研究はほとんど見られず、ボート競技そのものにおけるリーダーシップに関する論文もほぼ皆無である。

以上より、本論文では早稲田大学漕艇部が保有する歴史的文献等から日本のボート競技者に根付く価値観や、ポジションの特性を明らかにするとともに、全日本大学選手権大会の花形種目である男子エイトに出場した大学チームのクルーリーダーへの面接調査を行い、現在の競技者のリーダー特性や行動について明らかにすることを目的とした。

【研究方法】

本研究では、まずボート競技が日本に伝来し、現在に至るまでの歴史的背景を早稲田大学漕艇部の保有文献および日本ボート協会出版物より確認した。次いでリーダーシップ研究では「トップダウン型リーダーシップ」と「サーバントリーダーシップ」のスタイルを比較した。さらに先行研究によって明らかにされた勝利志向型スポーツチームにおける理想のキャプテン像、すなわち「目標志向性」「人間関係の維持発展」「メンバーへの激励」「競技知識」「競技能力」の5つの要素をもとにリーダーシップ行動論と深く関連すると思われる「目標志向性」

「人間関係の維持発展」「メンバーへの激励」についての質問を設定し、直接対面方式のインタビューを行った。調査対象は2013年8月22日～25日に埼玉県戸田市の戸田オリンピックボートコースで行われた第40回全日本大学選手権大会で男子エイトのクルーリーダーを務めた6名を各大学より1名ずつ選出した。選出にあたっては大会の競技結果を踏まえ、1～4位の上位層より2名、5～8位の中位層から2名、予選および準決勝敗退の下位グループ層から2名とした。

【結果および考察】

分析の結果、クルーリーダーの抱いている「選手としての視点」と、クルーという「組織の環境を整える視点」の2つが存在することを明らかにできた。エイトのポジションの中でリーダーに適するポジションは、競技面ではストロークペア（艇尾寄り、以下略）であり、クルーという組織の環境面に気を配るのであればバウペア（艇首寄り以下略）である。前者は他の選手を「ぐいぐい引っ張る」リーダーであり、後者はクルーを「後ろから支える」リーダーである。面接での発言から、選手としての花形ポジションはストロークペアであることが推察され、クルーリーダーは個人的にはストロークペアに乗りたいたいという欲求があるが、クルーのことを考えバウペアへのポジションチェンジを望むという価値観にサーバントリーダーシップの要素を垣間見ることができた。

また、クルーリーダーは組織内では監督コーチの管理体制の下でのミドルリーダーであり、結果に結びついていないチームほど監督・コーチとの連携がよくとれている傾向がみられた。結果が上位のチームの監督・コーチはトップダウン型リーダーシップを発揮しているものと思われる、その意向がダイレクトにクルーへと伝わっているように思われる。これに対して下位のチームほど、クルーは監督・コーチから遠い存在であり、放任されていたり意見に食い違いがあったりする様子が伺えた。

フォロワーがリーダーについてどのように考えていたのかという視点、監督・コーチら指導陣のリーダー行動も含め、今後の研究では監督・コーチやクルーメンバーにも焦点を当てた組織全体に対しての包括的な研究が求められよう。それによってクルーパフォーマンスに直結するリーダーシップの全体像が明らかになるものと思われる。